

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
VHS	FA85-001	旅 少年の自立と父親	一人の少年(中学生)が北海道へ旅行する。出発前の出来事、連絡船で出会った青年との会話、ホームで見かけた親子の別離などいくつかのエピソードを織りませ、貴重な体験を描く。(教育映画祭優秀作品賞)	29	C-1
VHS	FA85-002	ころろ・少年と老人問題	私たちが生活の中で気づかずに言ったり、おこなったことが思わぬ結果を呼ぶことがある。この映画では、少年の心の優しさ・子供の自殺・老人問題等、様々な問題を扱いながら心の問題を考える。	32	C-1
VHS	FA87-003	希望	進学競争・学歴社会の中でしだいに思いやりの心を失っていく息子たち。その心を取り戻そうと親は近隣の農家へ息子を通わせることにした。	35	C-1
VHS	FA87-005	やさしさ	ひとを疑うことを知らない少女と、都会に独り暮らしのお年寄り。忙しい生活に追われやさしさを失っていく社会の中で、ふたりの美しい心のふれあいを描く。	32	C-1
VHS	FA87-006	ぬくもり	数人の仲間にかこまれ暴力を加えられていた気の弱い少年が、たまたま通りかかった労働者風の男に励ましの言葉をかけられたことから勇気がわく。	34	C-1
VHS	FA87-007	別れ道	大学を出ていなければ・・・と、わが子に高望みする親には、進学を目前に悩み子どもの気持ちやかくれた才能が見えない。わが子が人生最初の別れ道に立った時、親として何ができるのか。	34	C-1
VHS	FA87-010	しあわせ配達人	人はみなどこかで助け合って生きている。都会の片隅で孤独にたえていないでまわりの人と助け合って明るく強く生きよう。	31	C-1
VHS	FA87-011	猿の子踊りと仲間たち	鹿児島県指宿市池田地区に伝わる民俗芸能“猿の子踊り”を習うことによって、仲間同士助け合うことの大切さを学んでいく。	49	C-1

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
VHS	FA89-025	おじいちゃんの贈り物・泣くもんか	元文・広文兄弟のお父さんは、遠いアラビアで石油設備造りの仕事をしている。そのお父さんが大けがをした。お母さんが看病に行くことになったため、2人はお母さんの田舎に預けられることになった。その村は、ダム建設で取り残された村だった。	30	C-1
VHS	FA89-026	おじいちゃんの贈り物・囲炉裏ってなあに	取り残された村では仕事がうまく運ばないため、村を離れようとしていたおじいさんは、2人を引き取れないと言う。おじいさんは、自分が引き取ると言って3人で山の上の空き家で暮らすことになった。その家には大きな囲炉裏があった。囲炉裏って何だか知らなかったけど、煮物ができて、あったかくて・・・。	30	C-1
VHS	FA89-027	おじいちゃんの贈り物・雪女出た	もうすぐ冬休み、山には雪がいっぱい降る。おじいちゃんが”つづらとうげの雪女”の話をしてくれた次の日、おじいさんの仕事が見つかって秋田へ行くことになった。それで2人を山形のおばさんに引き取ってもらうことにした。「山形なんかに行くの嫌だ」と元文は広文を連れて家出する。	30	C-1
VHS	FA89-028	おじいちゃんの贈り物・ともだちの木	家出はしたけれど山の中は道が分からない。歩き回って”つづらとうげ”にきてしまった。村ではみんなが心配して捜してくれた。家に帰った元文は「山形に行きたくない」と言って泣く。翌日、みんなでおじいちゃんの”ともだちの木”を見に行った。この木もやがてダムの底に沈む。	30	C-1
VHS	FA89-029	おじいちゃんの贈り物・声の手紙だ	おじいちゃんの所へアラビアのお母さんから荷物が届いた。みんなには手紙が来たのに、2人には何も来なかった。忘れちゃったのかな。寂しい思いの2人。ところが次の日、ほかの荷物にまぎれ込んでいたお母さんの”声の手紙”が見つかった。	30	C-1
VHS	FA89-030	おじいちゃんの贈り物・悪い人なんかいない	村を離れ、名古屋に移り住んでいた重吉いさんが、正月を生まれ故郷で過ごしたいと帰ってきた。おじいちゃんの幼友達で、2人は昔話に花を咲かせていた。そのころ、村に大学教授と称する男がやってきて、古い民具をタダ同然で集め始めた。	30	C-1

種別	分類番号	作品名	内容	時間 (分)	利用 区分
VHS	FA89-031	おじいちゃんの贈り物・もう嫌だ	おじいちゃんは、孫たちにソリや竹馬を作ってやろうとするが、元文たちは断った。もっとカッコいいものが欲しかったのだ。おじいちゃんは、自分の存在そのものを拒否された気持ちで機嫌が悪い。	30	C-1
VHS	FA89-032	おじいちゃんの贈り物・みみず飲んじやった	元文たちあてに、お母さんから手紙が届いた。元文は大喜びするが広文は元気がない。翌日、広文は高熱を出し、みんなは心配するが外は吹雪で医者が呼べない。そこでおじいちゃんは、むかしの方法で熱さましの薬を作ってくれた。その薬は・・・。	30	C-1
VHS	FA89-033	おじいちゃんの贈り物・お家が泣いているよ	勝利おじさんたちが、就職の相談のために東京へ出かけた。村ではあちこちで、移転する人たちが家を壊して燃やしている。家は燃えながら泣いているみたいだ。おじいちゃんも、春までにはここを出ていかねばならない。消えていく村をたくさん写真に撮った。	30	C-1
VHS	FA89-034	おじいちゃんの贈り物・さよならぼくたちの村	おじさんたちには東京での就職が決まり、元文たちの両親も帰国して横浜に帰ることになった。でも、2人は村の生活との別れを思っ複雑な心境だ。いよいよ村を去る日、おじいちゃんは土を耕し花の種をまいた。ダムに沈む村のために「せめてきれいな花を」と思ったからという。元文たちも手伝ってヒマワリの種をまいた。	30	C-1